

大山コミュニティバス大庄循環線について【報告】

1. 概要

市営大山コミュニティバス路線が不在であった大山地域大庄地区において、生活交通の移動手段を確保し、地域住民の利便性の向上を図ることを目的に、既存ダイヤの空き時間を活用し、駅や病院、スーパーマーケットを経由する「大庄循環線」を平成30年10月に新設し、試行運行を継続している。

この試行運行は、令和3年9月末までであることから、現在の利用実態を踏まえ、今後の運行方針について報告するもの。

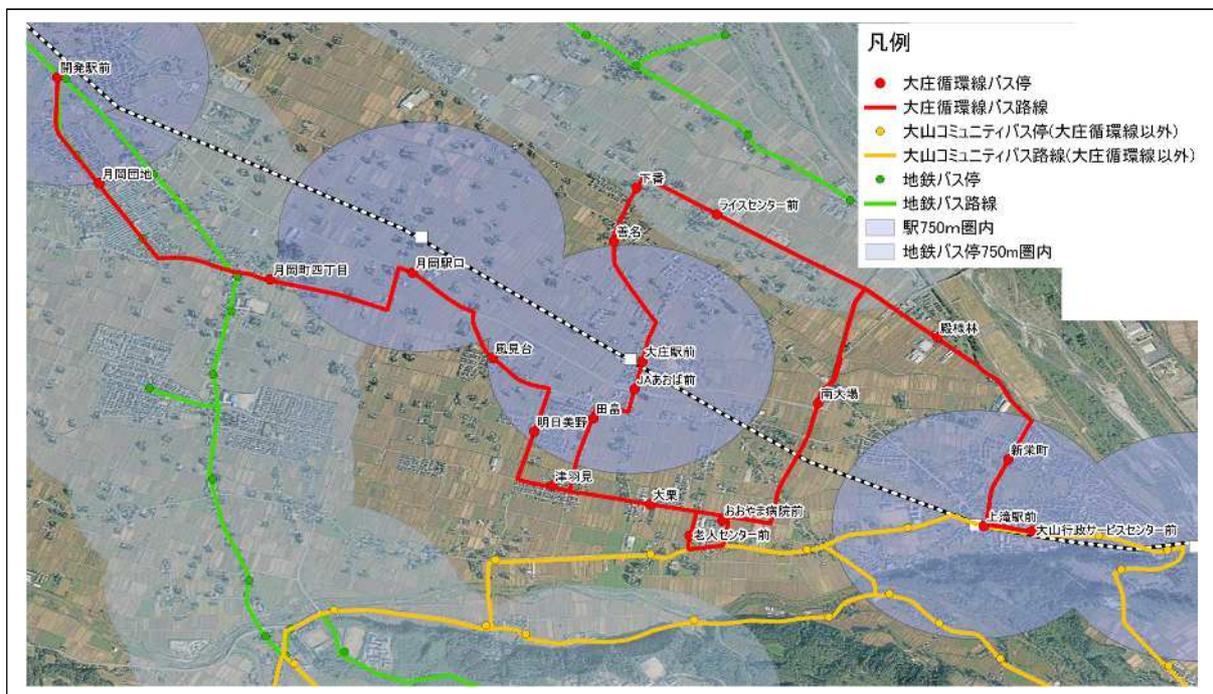
<これまでの経緯>

- ・平成30年10月1日 「大庄循環線」の試行運行開始
- ・令和元年10月1日 運行ルートの見直し、利用の少ないバス停の廃止
- ・令和2年10月1日 新型コロナウイルス感染症の拡大により、試行運行の検証が困難であったことから1年間延長
- ・令和3年4月1日 運行ルートの見直し、バス停の新設（月岡地区等に新設）

<大庄循環線の概要>

	順回り	逆回り
キロ程	21.8 km	26.4 km
所要時間	49分	59分
起点／終点	大山行政サービスセンター前／上滝駅前	
バス停数	31箇所	35箇所
運行日	月曜日～土曜日（年末年始除く）	
運行回数	2便／日	2便／日

<ルート図>



2. 利用状況

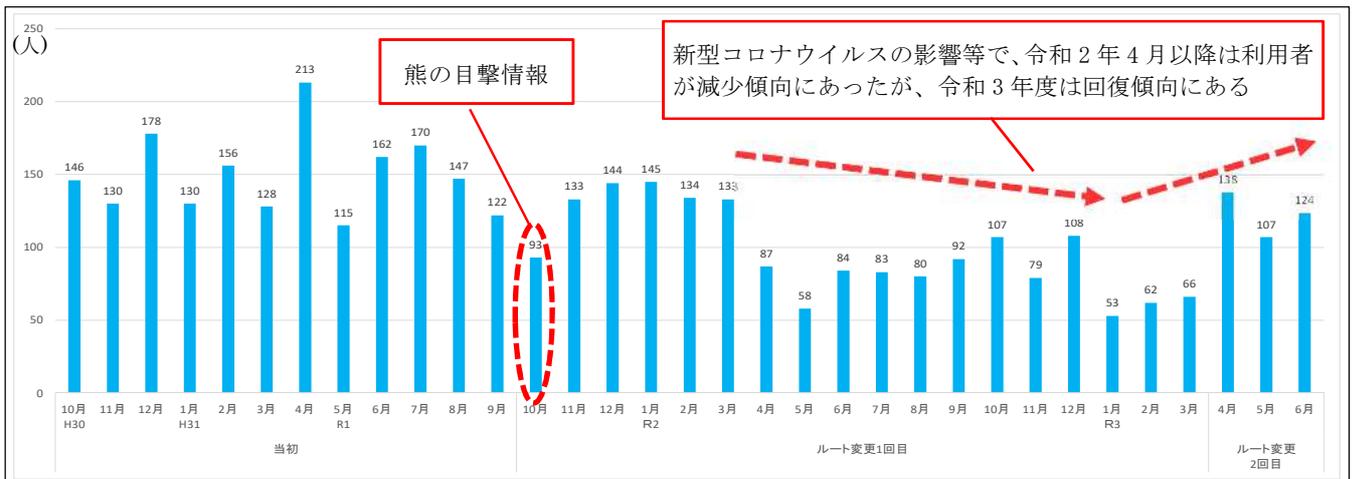
(1) 年度ごとの1便当たりの利用者数平均について

単位：人

	順回り (午前)		順回り (午後)		逆回り (午前)		逆回り (午後)		4便平均		
	平日	土曜	平日	土曜	平日	土曜	平日	土曜	平日	土曜	合計
令和2年度	0.94	0.88	0.52	0.50	1.37	1.06	0.49	0.62	0.83	0.77	0.82
令和3年度*	1.67	1.69	0.82	0.69	1.74	1.38	0.80	1.00	1.26	1.19	1.25

※令和3年度は、4月～6月の実績

(2) 月ごとの総利用者数について



- 令和元年10月は、大山地域において熊の目撃情報があったことから、外出自粛の動きがあった。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4月以降は利用者が減少傾向にあったが、令和3年度は回復傾向にある。

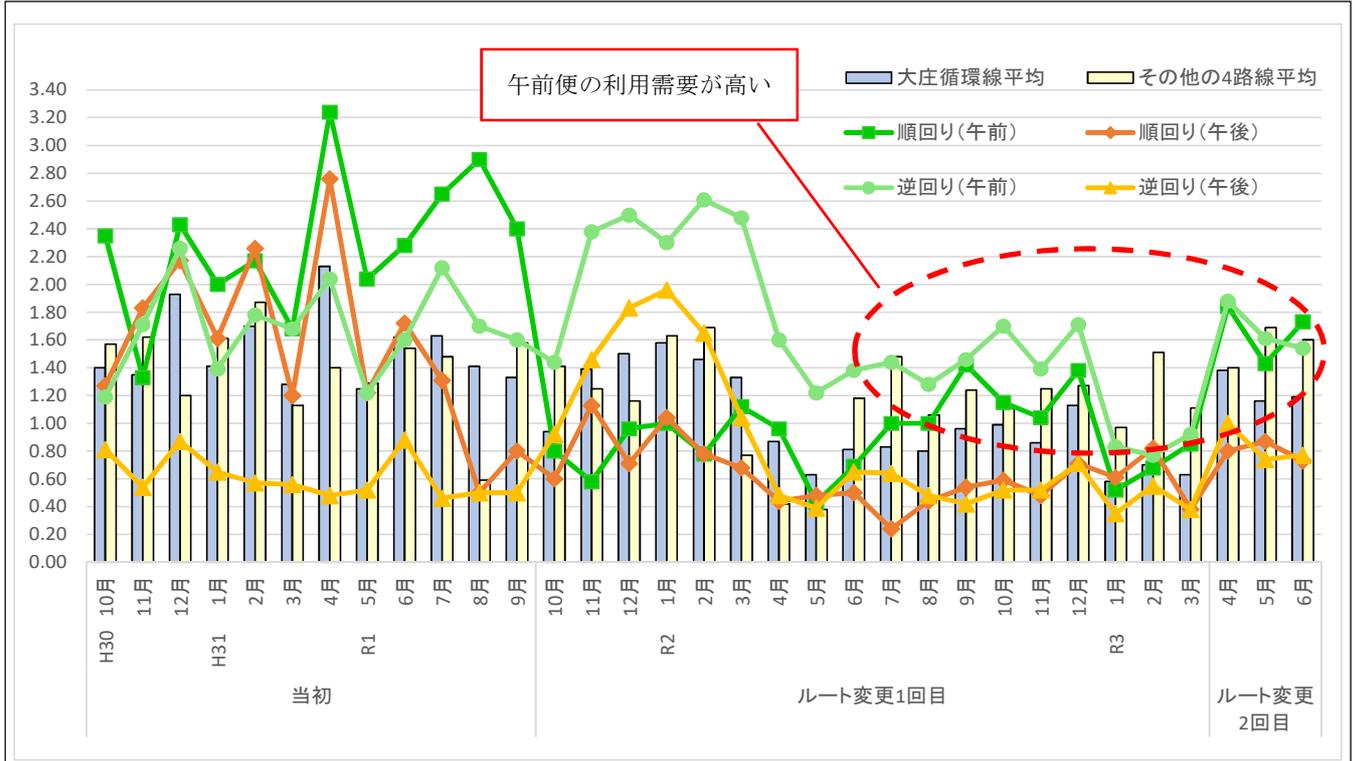
(3) 月ごとの1便当たりの利用者数について

①全体平均



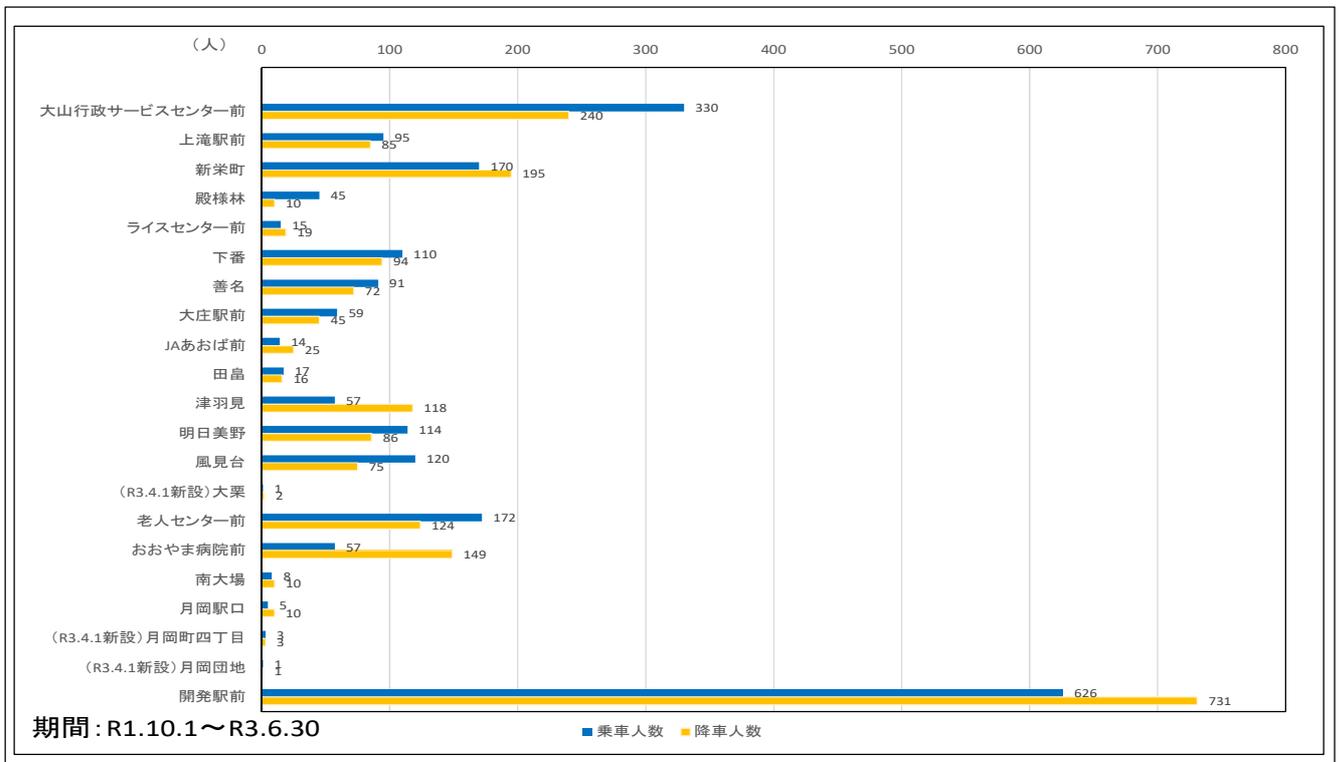
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、行政機関や病院、老人施設、スーパーマーケット等を循環する大庄循環線は、通学利用がある他の路線に比べて利用者の回復が弱い。

②便ごと



- ・大庄循環線は、順回り・逆回りともに午前中の利用需要が高い。

(4) バス停別の総利用者数について



- ・バス停は「大山行政サービスセンター前」と「開発駅前」の利用が多い。
- ・大庄循環線の主な目的地はスーパーマーケット(開発駅前)と大山行政サービスセンター、老人センター、おおやま病院前などである。

(5) 大庄循環線利用者の特徴について

- ・ 利用者のほとんどが高齢者で、定期的な利用者が多い。（他の路線は現金払いが大半を占めるのに対し、大庄循環線は回数券払いの利用者が半数以上いる。）
- ・ 全体の有料利用者の約半分が大庄循環線の利用者である。（他の路線は通学利用者（無料）が利用者数の大半を占める。）
- ・ 利用状況は、平日 1.26 人/便、土曜 1.19 人/便（R3.4月～6月）で、平日と土曜に大きな差は無いが、1 便当たりの利用者が平日・土曜ともに 0 人の場合がある。（日によって利用のばらつきがある。）

3. 今後の方針

- ・ 利用者は試行運行当初から比べると減少傾向にあったものの、最近では高齢者を中心に買い物等を目的に、定期的に利用され、R3 年度（4 月～6 月）は、R2 年度の 0.82 人/便に比べ、1.25 人/便と戻りつつある。
- ・ こうしたことから、引き続き、地域内の生活交通の確保や地域住民の利便性を維持するため、現行のルートやダイヤを変更せずに試行運行を継続する。

4. 事前確認事項

大庄地区自治振興会 7 月 8 日 今後の運行方針について確認

5. 今後のスケジュール

令和 3 年 8 月（今回） 富山市交通空白輸送地域公共交通会議の各委員への報告
令和 3 年 10 月 1 日 試行運行の継続